

決
教
濟
月
十七
日

七
月
一
日

淨寫



校合



登録



添附



官誦

官誦

官誦

調三第方七号
明治七年三月十七日

主務

調度局長



査査



會計局長



査査



御
輔

内局長



査査



別紙横濱實業造形局横濱製鏡所
手取の急行奉旨の付後貸借条約
改正の義不都合の義三疊之十
名指合の奉旨仰高裁下也

三四七十一

一五五

1557

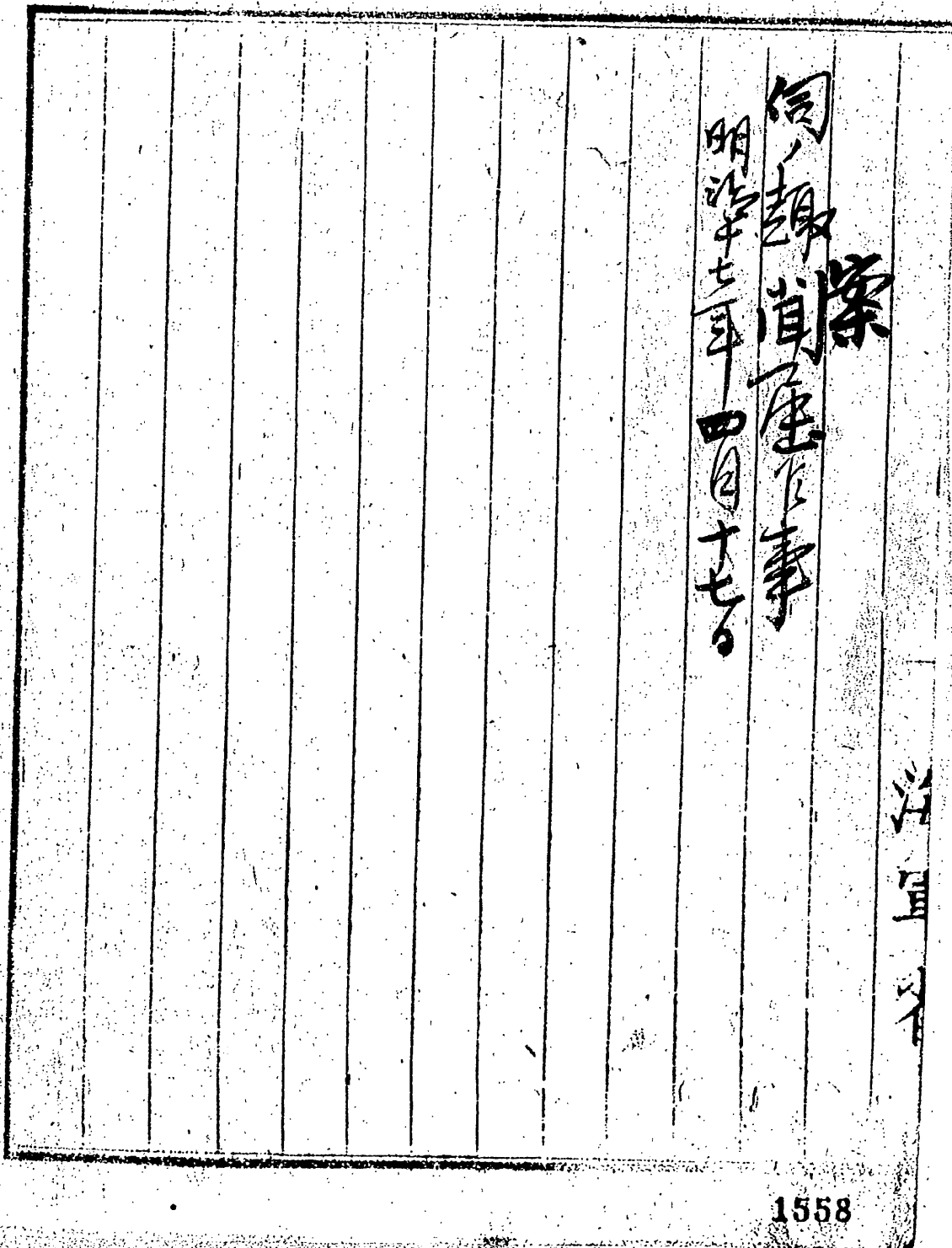
1556

也
 上
 倍
 製
 鐵
 所
 爲
 審
 查
 奉
 查
 奉
 查
 附
 日
 付
 日
 奉

1557

1556

有
 南
 方
 之
 事
 宜
 也
 此
 等
 事
 宜
 亦
 宜
 也



同趣南原直事
明治十七年四月十七日

1558

建永元五年十二月十九日

播磨紫鏡所貨渡條約

改訂し同

播磨紫鏡所東石川邊引移付建
 物棧械等條約書其の條約亦同可
 為山方去七月三日局長連田若山
 越了承以右石川邊引移付條約
 條約條約條約書亦在右邊引不
 却名之條約書其の條約亦在右
 條約條約條約條約條約條約條約
 至其為長之根流上下地本所
 西糾多條約書其の條約亦在右

普第三〇四號

三四七二

廣南天卷公行



本館に以て何と云ふ

是の如く

二十三年三月十日 海軍大臣 西園寺公経

海軍卿 川村純義 敬

1560

造船所規程制定後所ニ義明治十二年一月ヨリ至
二十三年十二月迄之ヲ年々半野泊ニ借用中ニ高田倉
内ニ揚子庫並機軸ヲ由人ノ自覺ヲ以テ高田石川路
傍船場内ヘ引立直シテ修補ヲ海軍省ニ於テ許シ後セ
ト付明治七年一月ヨリ明治十八年 月マテ海二十二年ト
定メ更改約スルノ左ニ如シ

第一條

一年限才石ノ生粉及諸蒸餾物及後ル要件ハ借
用人控テ後ニ揚子庫吹送船所長上直ニ議スヘキ
事

第二條

借用中ノ生粉及諸蒸餾物及後ル要件ハ借
用人控テ後ニ揚子庫吹送船所長上直ニ議スヘキ
事

借用人推す精意に注意スルべき事

第三條

臨時に船所出公出器械物等並極向に
精粗ヲ検査スル者借用人推すル程理ヲ
有スルモノトス

第四條

一 出物諸品機械物等借用料トシテ一ト年三回
至千四ノ借用人ヨリ送附形ノ收納スルべき事
但納金方ハ毎年五月迄款上ヨリ送附再及ニ
納付スルべき事

第五條

一 本借用料納金第一送附及フレキハ納金高
ノ外五割事ニ納金トシテ償フべき事

本所 資料部

第六條

一 運物諸器械物品等借用中、修繕等一切借用人、
自費タルヘキ事

第七條

一 借用人之故々若シクハ事能アリ工場休業スルコト
アルモ借用年限中、修繕借用人之自費擔ヒ要之
コトテ借用料ヲ他減スルヲ得サル事

第八條

一 震災只他能事ニ石類、瓦類、土物及ヒ諸器
械且シテ破損傷ヲ蒙タル修繕料由場々
於此修繕ノ旨議ニ付スヘキ事

第九條

一 貸後修繕中トモ修繕(修)費並ニ修繕ノ傷ハ借人

三四十四

借入料

本列第 五 卷 四

他西軍者に於ては、係り仕用する者、何れ
タリテ、必らず機械、各等諸機工に、めきモ、刀、盾
仕用スルモノ、又又係用人に、扱ふ法、こゝに、主物及
諸器械、只外、毀損傷者、云々ト、認めルルキ、係用人
ヨリ、其、事、之、係、差、出、ス、ヘキ、事、

第十一條

係用人に於ては、係用人に於て、自ら、教、方、以、て、返
納スル、事、ヲ、許、サ、ス、然、レ、ト、モ、其、只、括、括、電、知、ス、ル、モ
偶、チ、ナル、事、モ、得、ル、事、有、リ、以、テ、此、ル、物、を、ヲ、其、事、
之、不、得、止、場、合、に、於、て、返、還、シ、テ、該、ク、ニ、シ、テ、付、可、ク、
其、明、証、ヲ、認、ム、ル、キ、に、係、町、方、に、儀、ト、云、テ、付、可、ク、
其、差、ヲ、以、テ、返、還、シ、テ、其、事、モ、アル、ヘキ、事、

第十一條

第十一條

一 貸渡中迄形勢より適文スル新製修理ニ若
械ある義は何時モ其文を以テ採調スルハ申
事

但地盤新築改築造更相異多ク其義決
テ其ノ以テ多岐あり可ク懸懐ニシテ第一粗思決
ムル中ハ其文モ其作無セシムルモノトス

第十二條

一 他方貸文あるより其ノ造形存シテ又品製不修
至近セシムル事ニシテ裁決ニヒテ之レアルマニキ
事

第十三條

一 初期区画造ル中若械ある事其ノ口一ノ存シ

木更野 新船

此船物等より中、船修補整
理に付、是等ノ事

但期及年等、返還スル日

第十四條

借用人之、船修補及
失等アルキ、借用人ニ
於テ、限品借取等、其
當償金スル事

第十五條

借取後、船修補ノ事、
借用人ニ於テ、限品借
取等アルキ、借用人ニ
於テ、限品借取等、其
當償金スル事

第十六條

諸船物等、其船外、船
修補等、其船外、船修
補等、其船外、船修補
等、其船外、船修補等

ハ速カニ送船所ニ届ケルニ

第十七條

一送船所ヨリ送文ニ諸島製カ送用地産類モ又モ
コトウハ右中代價ヲ以テ現金拂下ケテ為スモノトス

第十八條

一諸島約及ニ島械拵付位ニモ交換或ニ新設ホ
義ニ付時ニ送船所ニ許シテノヲ徑テ海峽等
スヘキ事

一送船所ニ係約シテ年々暮毎ニ通署新布シ
通ラぬ置スル者也

横濱外洋軍艦船所長

明治十年月日 海軍大臣自筆之旨云

三四六六

東京府葛飾区草花三丁目廿番地手文

借用人 平野富平

右記の地手文は、先般美城生協借用の事
係御波より、中々方々にお尋ねあり、此係御
お心より、我々より、移るに、拙者一切、引取
引取、揮、危、と、文、解、り、は、と、也

借用人 若原公圃

右記の地手文は、先般美城生協借用の事、
手文を、依、之、加、印、付、と、也

若原公圃

造船所卜平野富二下ノ条約

墨書ハ現行三テ今般改正ラ

要スル康朱書ノ通

但十一十二兩條ハ現行ト曰ル

第一條

一 期限内^右諸建物及諸器械物品其蓋所ニ係ル要件

ハ借用^人ニ於テ於テ横須賀造船所長ト稟議スヘ

キ事

第二條

一 借用中^右建物及諸器械物品其外破損セサル様借

三百七十七

海軍省

主^用ニ於テ精々注意スヘキ事

第三條

一 臨時造船所員^用込出器^用械物品建物等取扱向之精
疎ヲ検査之直^用キニ借^用主ニ推問スルノ権理ヲ有スル
モノトス

第四條

一 建物及諸器^用械物品^用借^用料トシテ志^用キ年ニ付金
千四ツ^用借^用主ヨリ横濱^用賀^用造船所^用一收納スヘキ事
但納金方^用義ハ毎年^用十月^用至^用十月^用半額^用七月^用至^用
十月^用半額^用兩度^用納付スヘキ事

第五條

一 借^用料^用納期^用万^用一^用年^用延^用ニ及^用フ^用キ^用納^用金^用高^用外^用具^用五
割^用違^用約^用金^用ト^用シ^用テ^用償^用フ^用ヘ^用キ^用事

第六條

一 諸^{建物}器械物品^{借用中}建物及附屬品外郭柵夫東石垣川前
架橋^{借用}器械用^{中人}呼水^{中人}通水源堰井等一切^{中人}修繕^{中人}期
限中^{中人}借^{中人}主^{中人}是^{中人}自費^{中人}スル^{中人}ハキ事

第七條

一 借^{中人}主^{中人}と都合若シクハ事故アリ工場休業^{中人}及^{中人}ヤトモ^{中人}借^{中人}
主^{中人}約年限中^{中人}該所^{中人}ノ^{中人}國^{中人}文^{中人}ル^{中人}費用^{中人}ハ^{中人}松^{中人}テ^{中人}借^{中人}主^{中人}ヨリ^{中人}相^{中人}
辨^{中人}スル^{中人}事^{中人}ナ^{中人}リ^{中人}借^{中人}用^{中人}料^{中人}ヲ^{中人}減^{中人}スル^{中人}ヲ^{中人}得^{中人}サレ^{中人}事^{中人}

但^{中人}賃^{中人}渡^{中人}中^{中人}該地^{中人}面^{中人}ニ^{中人}係^{中人}ル^{中人}作^{中人}查^{中人}金^{中人}神^{中人}奈^{中人}川^{中人}縣^{中人}廳^{中人}
納^{中人}付^{中人}義^{中人}不^{中人}造^{中人}船^{中人}所^{中人}ニ^{中人}於^{中人}テ^{中人}相^{中人}辨^{中人}ス^{中人}ル^{中人}事^{中人}ナ^{中人}リ^{中人}

第八條

一 震災其他非常之災厄^{中人}罹^{中人}リ^{中人}建物及ヒ諸器械其
外大破損傷ヲ^{中人}来^{中人}タ^{中人}シ^{中人}修繕^{中人}唯^{中人}屆^{中人}場^{中人}合^{中人}ニ^{中人}於^{中人}テ^{中人}ハ^{中人}臨

三百六

二

三

時之詮議ニ付スヘキ事

第九條

一 貸渡期限中ト虽モ国家非常ノ際ハ勿論其他海軍
 省ニ於テ臨時使用ヲ要スル節ハ何時タリトモ家
 屋機械ハ勿論諸職工ノ如キモ其供使用スル者ト
 又借^用取扱不法ニシテ建物及ヒ諸器械其外
 毀損失傷甚シト認^ルル片ハ五ヶ月^前報^告シテ海
 軍省ハ取扱借^用ヨリ相当ノ償金差出スヘキ事

第十條

一 貸渡期限中ハ借^用ニ於テ自^分返納スルヲ許サス
 然^レト虽モ其ノ拮据罷免スルモ偶大ナル障碍等
 故ヲ以テ頗ル損耗ヲ来タシ不得止場合ニ於テ返還
 ヲ請フニ至リ其ノ事實明跡ヲ認^ルル片ハ臨時詮議

ノ上三ヶ月前ノ報告ヲ以テ返還セシムル義モアルハキ事

滿 第十三條

一 期限後返還ノ節諸器械及建物^{物品}其外一品一ヶ所々

リトモ傷損等有之節ハ都テ元形之通修補整理

シテ返還スヘキ事

但シ期限内不時返還スルコトアルモ同断

第十四條

一 借主^{借用人}ノ不注意ヨリシテ損破及^{損失}火災或ハ紛失等アル

ル節ハ借主ニ於テ現品償却或ハ相当償金スヘキ

事

滿 第十五條

一 貸渡期限相満々海軍省ニ於テ使用スルカ^再平野

富ニニ於テ再借^借用^用ヲ^ス諸^諸求^求ス^ス七^七年^年ハ^ハ滿^滿期^期一^一ヶ^ヶ年^年

三百七十九

前ニ於テ松議ヲ遂ク入平事

海軍

借用
平野
昌二

前書之通平野昌二義於上横濱製鐵所借用之義

御締約致候ニ付テハ右借主身元ハ勿論萬一御締

約ニ相背矣義有三款ハ拙者一切引受万事御指揮

ニ随ヒ更詳可也

横濱海軍造船所ノ艦横濱製鉄所諸建物并備付者器械
物品別録目録之通明治十三年一月ヨリ明治二十二年十二月迄十一年
間海軍者於東京府平民平野富ニ被貸以て造船所長
海軍中将中牟田倉之助ト右平野富ニト其条目之締約存テ如シ

中一 條

一 期限中諸建物及諸器械物品共該所ニ係ル要件ハ借主

ニ於テ於テ横濱製造船所長ト稟議スルキ事

中二 條

一 借用中建物及諸器械物品其外破損セリ檢借主ニ於テ

精々注意スルキ事

中三 條

一 臨時造船所員流出器械物品建物等取扱向之精練ヲ

檢査直ニ借主ニ推向スルノ権理ヲ有スルモノトス

三百八十

横濱製鉄所

1576

1575

行

新造建船并備付諸器械

明治二十二年十二月迄十ヶ年

へ被貸以、舟造船所長

ト其条目ヲ締約スルヲ如シ

二所ニ係ル要件ハ借主

ハスヘキ事

以テ復セサル撥借主ニ於テ

等取扱向之精疎ヲ

トスルモノトス

黄頁

1576

1575

行ノ条約

中四條

一 建物及諸器械物器借用料トシテ毎年二月廿日金千円ツ借主ヨリ横濱製造船所ノ收納スヘキ事

但納金言ノ義ハ毎年三月三十日半額六月三十日半額兩度納付スヘキ

中五條

一 借用料納期五二遲延ニ及ラキハ納金馬外具ノ五割違約金トシテ償フヘキ事

中六條

一 諸器械物器建物及附屬品外部柵矢來石垣門前架橋
器械用呼水々道水源堰井等一切修繕ハ期限中借主
之自費タルヘキ事

中七條

一 借主ノ都合若シクハ事故アリ工場休業ニ及フトモ貸渡条約年限

中該所ニ関スル費用ハ總テ借主ヨリ相辨スヘキ事

但シ貸渡中該地面ニ係ル作益金神奈川縣廳納付ノ

義ニ造船所ニ於テ相辨スヘキモノトス

中八條

一 震災其他非常之災厄ニ准リ建物及ヒ諸器械其外大破損

傷ラ来タレ修繕難屆場合ニ於テハ臨時之詮議ニ付スヘキ事

中九條

一 貸渡期限中ト雖モ國家非常ノ際ハ勿論其他海軍省ニ於テ

臨時使用ヲ要スル節ハ何時タリトモ家屋器械ハ勿論諸職工

如キモ其終使用スル者トス又借主ノ取扱不法ニシテ建物及ヒ

諸器械其外毀損失傷甚シト認めルハ三月前ニ報告シテ海軍省へ

取揚ケ借主ヨリ相當ノ償金差出スヘキ事

中十條

一 貸渡期限中、借主ニ於テ自終返納スルコトヲ許サス然リト雖モ其ノ
拮据黽勉スルモ偶大ナル障碍等故テ以テ頗ル損耗ヲ来タシ不得止
揚合ニ於テ返還ヲ請フニ至リ其ノ事實明跡ヲ認ムルハ臨時詮議
ノ上三ヶ月前ノ報告ヲ以テ返還セシムル義モアルヘキ事

第十三條

一 貸渡中造船所ヨリ註文スル新製修理ノ器械物品ノ義ハ何時モ
差支無之様調製スヘキ事

但シ地金類疎悪製造方齋畧等義決シテ有之間敷其時々
点檢ノ上万一疎悪ト認ムル節ハ幾度モ製作替セシムルモトス

第十三條

一 地方註文品有之為メ造船所註文品製造方運送セシムル等
ノ義決シテ以ラルマシキ事

第十三條

一 期限後返還ノ節諸器械及建物其外一品一ヶ所タリトモ
傷損等有之節ハ都テ元形之通り修補整理シテ返還スヘキ事

但シ期限内不時返還スルケアルモ日断

第十四條

一 借主ノ不注意ヨリシテ損破及ヒ火災或ハ紛失等アル節ハ
借主ニ於テ現品償却或ハ相當償金スヘキ事

第十五條

一 貸渡期限相満テ海軍省ニ於テ使用スルカ平野當ニ於テ再ヒ借
用ヲ請求スル義ハ滿期一ヶ年前ニ於テ協議ヲ遂クヘキ事

第十六條

一 諸器械及ヒ建物其外毀損或ハ紛失致候節ハ速カニ造船
所ハ其ノ顛末ヲ詳細届出ヘキ事

第十七條

一 期限後返還ノ節諸器械及建物其外一品一ヶ所タリトモ
傷損等有之節ハ都テ元形之通り修補整理シテ返還スヘキ事

但シ期限内不時返還スルイアルモ日割

第十四條

一 借主ノ不注意ヨリシテ損破及ヒ火災或ハ紛失等アル節ハ
借主ニ於テ現品償却或ハ相當償金スヘキ事

第十五條

一 貸渡期限相満テ海軍省ニ於テ使用スルカ平野當ニ於テ再ヒ借
用ヲ請求スル義ハ滿期一ヶ年前ニ於テ協議ヲ遂クヘキ事

第十六條

一 諸器械及ヒ建物其外毀損或ハ紛失致候節ハ速カニ造船
所ヘ其ノ顛末ヲ詳細届出ヘキ事

第十七條

一 造船所ヨリ注文ノ諸品製造用地金額差支有之節ハ相當
代價ヲ以テ現品拂下ケテヲ為スモノトス

第十八條

一 諸建物及ヒ器械据付ケル位置变换或ハ新設等ノ義ハ其
ノ時々造船所ノ許可ヲ經テ後チ着手スヘキ事

右條々締約シ畢リ書面ニ通達署鈐印シ各一通ヲ収置スル
者ナリ

横須賀海軍造船所長

明治十二年五月二十日

海軍中將 中牟田倉之助

東京府下京橋區築地二丁目貳拾番地

平民

拜借人

平野 五二

前書ニ通平野富二ニ於テ横濱製鐵所借用之義御締約致候ニ付

1583 1582

一 造船所ヨリ注文ノ諸品製造用地金額差支有之節ハ相當
代價ヲ以テ現品拂下ケテヲ力スモノトス

第十八條

一 諸建物及ヒ器械据付ケ位置変換或ハ新設等ノ義ハ其
ノ時々造船所ノ許可ヲ經テ後チ着手スヘキ事

右條々締約シ畢リ書面ニ通連署鈐印シ各一通ヲ収置スル
者ナリ

横濱賀海軍造船所長

明治十二年五月三十日

海軍中將 中牟田倉之助

東京府下京橋區築地二丁目貳拾番地

平民

拜借人

平野 爲二

前書之通平野爲二ニ於テ横濱製鐵所借用之義御締約致候ニ付

1583 1582

右借主身元勿論萬一御締約ニ相背候義有之節、拙者一切
引受万事御指揮ニ隨ヒ處辨可仕候也

保証人

岩瀬公重

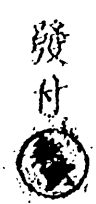
右様借人平野富三御約定申上候通相違無御座候依之
加印仕候也

京橋區長江塚庸謹

The image shows a page from a document, likely a ledger or record book. It features a large rectangular area defined by a double-line border. Inside this area, there are several vertical lines that create approximately 10 columns of varying widths. A single horizontal line is drawn near the bottom of the page, just above the page number, creating a header row. The page is otherwise blank, with no text or data entries. The paper appears aged and slightly textured.



件名簿
登録



長官

次官

局長



参査

主査



属僚



三月廿二日

為馬送船之付根原惣錢所貸取傳約及
印之家送之通王公也此後之可也奉作
為我知也

普第。四一號三

平船之為之貸原立於根原惣錢所奉
系石川増引般之奉建也根原惣錢所奉
奉船船架板り亦之調可也奉旨去之七月申
主船馬及送船取也奉旨之奉建也根原惣錢所奉

三百六十四

每

百

八

1586

海軍省

陸軍省に於て海軍省に於て
出立書等為御書之上に御書等
の御書

海軍

明治二十二年三月

海軍省長

海軍省長

連署

1587